

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593357

研究課題名(和文) リプロダクティブケア領域のHIV対策、感染妊婦、防止教育の包括支援戦略

研究課題名(英文) Comprehensive support strategy of "infection control in reproductive care area", "support of an HIV infection pregnant woman" and "sexual infection prevention education"

研究代表者

佐山 光子 (SAYAMA, Mitsuko)

新潟大学・医歯(薬)学総合研究科・保健学研究科内講師

研究者番号：50149184

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：リプロダクティブヘルス(性と生殖に関する健康)課題のひとつである「女性とHIV」に対して、助産師の立場から「ケア業務の感染対策」「HIV感染妊産婦の支援」「性感染防止教育」の包括的な支援戦略を目指した。感染対策は「病院・診療所」「産婦人科外来」「地域母子訪問」の業務を網羅的に列挙した質問紙を作成し、血液体液暴露と防護具使用状況、共通及び特有の感染リスクを把握した。また質的調査から助産師の意識や価値観、課題を抽出した。他方、HIV感染女性に対し「助産師の支援」を主題とする面接により、ケアニーズが潜在し助産師が見過している「少数者」に目を向けたリプロダクティブヘルス支援の糸口を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：We aimed to build support measures that comprehensively cover 'infection control in the area of sexual and reproductive health care', 'support for HIV-infected pregnant women' and 'education on the prevention of sexually transmitted diseases' from the perspective of midwives to address the topic of 'women and HIV' within the context of reproductive health. We conducted a questionnaire survey of 'hospitals and clinics', 'obstetrics and gynaecology departments' and 'regional mother and child home visits' to ascertain the actual state of exposure to blood and bodily fluids and the use of protective barriers as well as common and specific infection risks. We also conducted a qualitative study to identify the awareness, values and challenges of midwives. In addition, an interview survey investigating 'midwife support' for HIV-infected pregnant women allowed us to start obtaining insights into reproductive care targeted to the care needs of potential 'minorities'.

研究分野：医歯師薬学・看護学・臨床看護学

キーワード：助産師 女性 HIV リプロダクティブヘルス リプロダクティブケア 感染管理 血液体液曝露  
地域母子保健

### 1. 研究開始当初の背景

1994年の世界人口開発会議、翌95年の世界女性会議で表明された「リプロダクティブヘルス」(女性の性と生殖に関する健康、生涯を通じた女性の健康)の課題のひとつは「女性と HIV」である。しかし、女性の HIV 問題に対する社会的関心は低く、女性自身はもちろん、産科医療者、リプロダクティブ(以下、リプロ)ケアに従事する助産師にとっても身近ではない。一方、エイズ対策の領域では、HIV 母子感染予防対策マニュアル第6版(平成 22 年度厚生科研費エイズ対策研究事業)が発行され、周産期看護の充実を目指している。

問題は、こうした情報が産科医療の現場や看護師、助産師に浸透していかないことである。これまで感染症領域のエイズ対策は男性が中心で、産科領域は子どもへの感染防止面に焦点が当たっていた。女性のエイズ問題は、この狭間にあって見落とされているともいえる。そのため、妊婦検診には HIV 抗体検査が含まれているものの助産師によるケアや支援の実践、研究の蓄積がなく、女性当事者のニーズや有効なケアが明らかになっていない。

また、HIV 検査の陰性、陽性に関係なく、教育、予防から医療サービス等の系統だった取り組みがなく、女性の全人的ケアに関する研究も進んでいない。

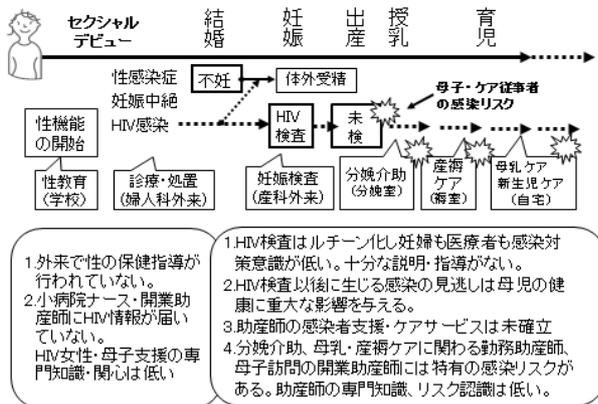


図1 女性の人生-リプロダクティブケア領域におけるHIV問題

女性の人生と HIV について、助産師の関わり(図1)をみると、学校教育、婦人科受診、妊婦検診、出産入院・退院時、母子訪問時とさまざま接点がある。しかし、HIV 検査

はルーチン化しておりリスク意識は低い。そこには児や母親の健康の問題だけでなく、助産や産科業務、退院後の母子訪問業務のリプロケア提供者側にも血液・体液曝露や乳汁の取り扱いなど他の診療科と異なる特有の感染リスクが存在している

海外では女性に対し HIV 検査を推奨する観点から、フォーカスグループ研究による「HIV 検査に対する女性の関心と戦略」(Rothpletz 2011)、グループインタビュー研究の「女性の HIV 検査の経験」(Barbara 2008)、また、Women's Health Project のアンケート調査による「妊娠 HIV 検査に関する態度、意識の都市比較」(Blake2008)のように、質的、量的研究手法を用いて女性の立場から HIV 検査を捉える研究が見られている。しかし、海外の研究には、HIV に関するリプロ・ウイメンズヘルスに対して助産師の活用・役割拡大という視点はない。

そこで、本研究は、助産師が性と生殖に関する健康・女性の生涯を通じた健康の支援に関わる専門家として女性の HIV 感染防止および支援に果たす役割が大であることを認識し、女性の生涯を通じた健康支援の観点から包括的な支援戦略の構築を目指した。

### 2. 研究の目的

助産師によるリプロヘルス支援の観点から、研究計画では取り組みの方向を、「女性の感染防止」「リプロケア領域の感染対策」「HIV 感染妊産婦の支援」におき、それぞれの課題把握を通して、女性に対する包括的な支援戦略を構築することを目的とした。

### 3. 研究の方法

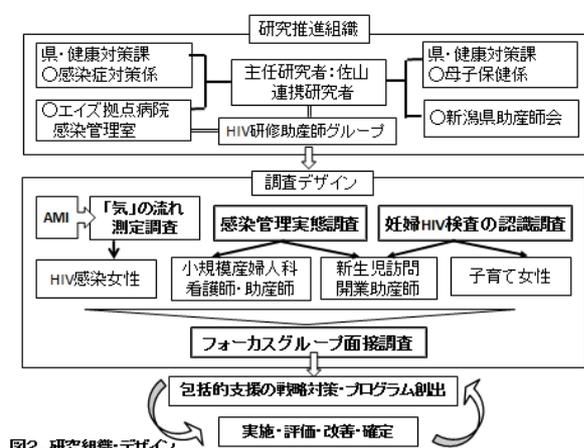
方法は2段階調査で構成した。第1段階は、目的に従い、研究計画～それぞれの現状把握のための無記名自記式質問紙調査、第2段階は、調査結果をもとに、課題の明確化と解決方を導くためのフォーカスグループディスカッション(以下、FGD)による質的調査である。

調査地域はエイズ拠点病院をもつ新潟県内

に特化し、行政機関、助産師団体、拠点病院感染管理室の関係者との連携により、調査結果をフィードバックしながら包括的な支援プログラムの開発を行うこととした(図2)。

研究協力者は、エイズ拠点病院感染管理部の認定看護師、周産母子センターのHIV感染妊婦の担当助産師、産科婦人科クリニックおよび中小病院の病棟・外来勤務の助産師、地域開業助産師、母性看護(女性の健康)専門看護師、母性看護/助産学教員(大学)で構成した。

実施にあたり新潟大学医学部倫理委員会の承認を受けた(第1543号)。



### (1) 質問紙調査

研究計画「女性の感染防止」の調査では、2000年に実施した「女性とHIV/エイズ」調査票(学生、育児期女性)、産科業務の感染管理調査票(医療施設)をもとに質問紙を作成した。しかし、実施にあたって、感染症有識者から、アンケートはHIVの特別視や偏見の助長につながる危険があるという指摘があった。また、HIVに特化せず、リプロヘルスの包括的支援を戦略とすべきとする助言を得た。加えて、「産婦人科領域のコンタミリスクとその周辺・感染症診療の原則」(青木webブログ、2012)から見過ごされている産婦人科外来の感染管理の実態を明らかにすべきという情報提供があった。これを受けて調査票の項目だけでなくアンケート実

施の是非を再考し、仕切り直しを行った。修正点は、「女性とHIV」に関する調査の断念と産科婦人科外来調査の追加である。また、HIV感染女性や感染妊婦を対象としたAMI(気の流れ:経絡臓器機能)測定調査も中止した。HIV感染妊婦の自発的協力者を得ることは難しくデータ収集の意味がないことを考慮し、代替案に変更して倫理委員会の承認を受けた。

研究計画「リプロケア領域の感染対策」は、勤務助産師と開業助産師を対象とし、「病院・診療所の分娩介助・新生児ケア・産褥期ケア」(以下、病棟)、「産科・婦人科診療介助」(以下、外来)、「妊産婦・新生児訪問・沐浴訪問・乳房ケア」(以下、地域)の3領域とした。3種類の質問紙を作成するため、研究協力者がそれぞれの立場でケア業務の洗い出しを行い、一連の行動を網羅的にリストアップして、血液体液曝露と感染対策の実態、意識を問う調査票で構成した。また、妊娠時HIV検査の事前・事後説明の実施状況と説明内容を把握するための設問を加えた。

### (2) FGD

質問紙調査の結果をもとに研究協力者が問題の所在の共有化を図り、FDGのファシリテーター役割を担当することとした。まず、助産師職能集団に対し「リプロケア領域の感染対策研修会」を開催し、調査結果を報告後、参加者を小グループに分けてFGDを実施した。テーマは順に「調査結果の感想」、「問題だと思うこと」、「解決方策」である。模造紙に書き込んだ記録を収集し、内容分析を行った。

### (3) HIV感染女性のグループ面接

研究計画「HIV感染妊産婦の支援」は、倫理的配慮により妊産婦を対象とせず、HIV陽性者の自助グループを介して協力者7名(のべ8名)を得た。また、HIV妊婦担当の助産師2名も参加者とした。面接回数は3回、参加者は1回目・2回目、5名(当事者3名、助産師2名)、2回目4名(当事者4名)、個人面接は1名。インタビューテーマを「リプロヘルス」、「助産師による支援」におき、潜在あるいは顕在するニーズの

把握とともに助産師の役割を見出すことにした。

#### 4. 研究成果

##### (1) 質問紙調査

県内分娩取扱い医療機関 47(病院 24、医院 23)施設のうち、協力を得た 25(病院 15、医院 10)施設の産科ケア従事者 270名(回収率 65.5%)、同施設の外来従事者 110名(病棟兼務を含む)、助産師会会員 200名のなかで妊産婦新生児訪問従事者 137名のうち 109名(79.6%)の有効回答から現状を把握した。

リプロケア領域における血液体液の曝露機会は、病棟、地域ともに頻度が高く、汚染部位も手指・腕のほか顔面、目や口など多岐にわたる。

分娩介助・新生児ケア・準備片付けの55行動(項目)は、全体として感染防止対策が浸透してきている。しかし、個別にみると、点滴注射業務や搾乳等の手袋着用率は3割前後に留まり、感染リスクの高い行動が存在している。

外来業務である、患者の内診室入室から退室までの36行動では、体液汚染物(処置シート、経膈プローブカバー、外陰部の拭き取り、ゴミすて)など素手での取扱い率が高く、医師は処置前後の手洗い・手指消毒の実施率が低い。

搾乳や乳房ケア時の手袋着用率は、病棟で5割前後、地域で2割程度にすぎず他の業務の感染対策行動と乖離がみられる。

地域業務は、どの業務でも乳汁や新生児の臍分泌物・尿・便などの付着頻度が高いにも関わらず素手の行動が多く、感染リスクに対して無防備である。「ケア時にディスポ手袋を全く使用しない」は妊産婦ケアで6割強、乳房ケアで約5割、とくに新生児訪問では9割弱を占めている。

病院の施設規模を、総合病院と非総合病院の2群で比較すると、過去1年間の分娩介助時の血液・体液曝露経験はいずれも90%以上と変わらない。一方、針刺切傷経験は前者 3.4%、後者 12.9%、針刺切傷報告書「有」は前者 98%後者 77%、標準予防策の教育研修機会を含め医療安全体制に差がみられた。

これらの結果から、リプロケア領域の感染対策

および教育研修プログラムは、産科特有の感染対策に注目するだけでなく全診療科に共通の業務をも含め、一連の行動の流れを追い、個々の業務に注目して取り組む必要がある。

なかでも外来業務と地域で活動する開業助産師を対象とした感染対策が重要であり、取り組みを急ぐ必要のあることが浮き彫りになった。

##### (2) FGD

産婦人科外来および地域における感染対策の課題と方策

FGDの参加者は、開業助産師 79名、勤務助産師 29名、行政関係 5名、開業と勤務兼業 6名、その他助産師 4名の 117名。1グループ 6-8名とし 18グループに分けた。

進め方として、「標準予防策」の講義に続きリプロケア領域の質問紙調査の結果を報告後、FGDを実施。その結、「感想」255件、「問題だと思うこと」90件、「対策」27件である。

外来業務に関する「感想」は、内診台のバスタオルやカーテンなど外来環境の汚染の気づき、血液体液曝露の認識の甘さ、医師の診察操作における感染対策意識の疑問などが挙がり、「問題と思うこと」は、医師の意識、カーテンの必要に対する医師の固定観念、診察・介助操作に対する感染予防意識の低さに絞込まれた。

地域で活動する助産師の FGD では、感染の不安感がある一方で、母乳や新生児を感染対象とすることの抵抗感や個人的防護具のコスト問題、訪問を委託する行政の指導・援助や感染対策の環境整備などの要望が導かれた。

開業助産師のリプロケアの意識と価値観

質問紙調査の自由記述データおよび FGD による内容分析の結果、ディスポ手袋の使用の有無の理由は7カテゴリーに集約された(図 3)。地域で訪問指導に従事する助産師には、個人防護具の使用に対する強い抵抗感がある。その背景には、「訪問の場の意味や捉え方」、「正常の母子をケアの対象とみる認識」、「無垢の存在としての新生児や母乳の扱い」など、医療の場とは異なる地域の助産師ならではの信条や価値観

が存在する。その一方で、医療の場と地域の感染対策の観点から、標準予防策を進めるためには、「訪問を委託する市町村の関与」、「訪問業務のための感染対策指針」、「教育研修の組み入れ」、「ケアの支障の改善」など、医療、地域、行政連携による取り組みを進める必要のあることが明確になった。

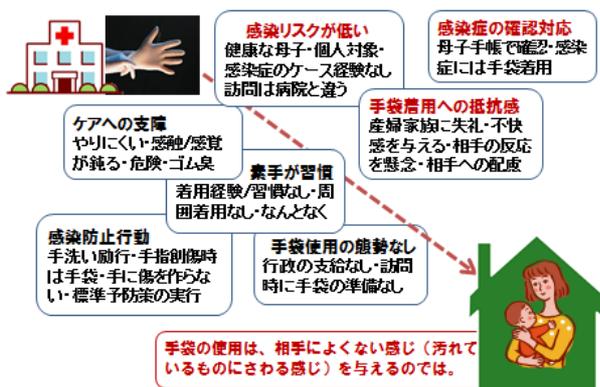


図3 FGDから抽出された7カテゴリ： ティスポ手袋使用の有無の背景理由

### (3) HIV 感染女性のグループインタビュー

協力者は30代～40代。既婚者4名(子ども有3名)、独身3名、感染歴はおよそ、2～3年、10年、20年である。これらの女性は「自助女子会グループへの参加によって救われた」と語るサバイバーであり、1人が声掛け人となって全国各地からの参加であった。感染の判明契機は、胎児感染、献血で、妊娠検査で、感染不安で検査を受けて、気軽に検査を受けて、であった。参加者の語りは、「自助グループとの出会いによる転機」、「最大の秘密の共有」、「世間に隠さざるを得ない偏見のギャップ」がメインであった。助産師の支援やリプロニーズは明白ではなかった。

### (4) 包括的支援戦略としての感染防止教育

リプロケア領域の感染対策は、病棟 - 外来地域でケア業務に従事する助産師の観点から包括的な調査は行われていなかった。HIV 感染対策だけでなく、感染症の取り組みは医療関連施設だけでなく地域や行政機関とも密接な連携を図り、対応することが重要となっている。本研究は職業感染を防止し、母子や女性のロプロヘルス支援や性感染症防止教育に向けて新しい切り口を示す一助となった。

## 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 6 件)

渡邊さゆり、内山正子、吉森容子、佐山光子、産科業務の感染防止対策に関する研修・教育機会と血液・体液曝露の実態及び課題-病院規模による比較から-、第31回日本感染環境学会、平成28年2月20日、「国立京都国際会館(京都府・京都市)」

内山正子、渡邊さゆり、吉森容子、佐山光子、産科病棟業務における血液・体液の曝露と感染防止対策の実態、第31回日本感染環境学会、平成28年2月20日、「国立京都国際会館(京都府・京都市)」

吉森容子、内山正子、渡邊さゆり、清水さなえ、星野織江、諸橋麻紀、佐藤悦、佐山光子、リプロダクティブケア領域の感染リスク-産婦人科外来-、第56回日本母性衛生学会、平成27年10月16日、「いわて県民交流センター(岩手県・盛岡市)」

齋藤里佳、内山正子、佐藤悦、佐山光子、リプロダクティブヘルスケア領域の感染対策-助産師の妊産婦新生児訪問指導における感染リスクの実態-、第56回日本母性衛生学会、平成27年10月16日、「いわて県民交流センター(岩手県・盛岡市)」

佐山光子、石黒佳子、齋藤里佳、坂井眞由美、増田くみ、妊産婦新生児訪問指導における助産師の感染リスクの特徴と実態、第11回ICMアジア太平洋助産学術集会、平成27年7月22日、「パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市)」

佐山光子、清水さなえ、星野織江、内山正子、石塚さゆり、吉森容子、諸橋麻紀、齋藤里佳、増田くみ、石黒佳子、リプロダクティブヘルスケア領域における感染対策の実態、新潟母性衛生学会、平成26年11月8日、「新潟医療人育成センターセミナー室(新潟県・新潟市)」

〔その他〕

佐山光子、感染対策調査報告(講演)、平成27年妊産婦新生児乳幼児等支援者研修会、新潟県助産師会、平成27年4月16日、「新潟県看護研修センター(新潟県・新潟市)」

佐山光子、リプロダクティブケア業務の感染対策の課題(ファシリテーター)、平成27年度妊産婦・新生児・乳幼児等支援者研修会、新潟県助産師会、平成27年4月16日、「新潟県看護研修センター(新潟県・新潟市)」

(公社)新潟県助産師会ウェブページ「助産師の妊産婦新生児訪問指導における感染対策調査」

<http://www.niigata-josanshi.net/news/index.html#57>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

佐山 光子(SAYAMA, Mitsuko)

新潟大学・医歯学総合研究科・保健学研究科内講師

研究者番号:50149184